

令和5年度 地域学校協働活動推進委員会開催

場所：青森県立図書館 4階 集会室 日時：令和6年2月9日（金）

地域学校協働活動及び放課後子ども総合プランの効果的な推進を図ることを目的に、令和5年度地域学校協働活動推進委員会が、第1部「放課後子ども総合プランについて」、第2部「地域学校協働活動について」の2部構成で開催されました。

はじめに、県生涯学習課小館課長から挨拶があり、各委員が紹介されました。

設置要綱の定めるところにより、委員長には青森中央短期大学幼児保育学科 松浦淳非常勤講師が選任され、副委員長には五所川原市立三輪小学校 會津隆史校長が指名されました。

1

放課後子ども総合プランについて

第1部は、県生涯学習課とこどもみらい課担当者から、こども家庭庁・文部科学省放課後児童対策パッケージ、放課後児童クラブ及び放課後子供教室の事業内容について説明後、こどもたちの日頃の様子や必要な支援について意見交換が行われました。

委員からは、「現場では支援員不足が一番の問題。配慮が必要な児童に支援員がつきっきりになってしまう。必要なことだが、ほかの児童に対して手薄になっていくので、支援員の数を増やして欲しい。」「朝のこどもの居場所づくりも重要で、保育所は7時だが、児童クラブは7時半からで、小1の壁となっている。放課後児童クラブだけではなく、学校やCS等との連携が必要であると考える。」など、具体的な意見が出され、継続的なシステムづくりが今後の課題となりました。



2

地域学校協働活動について

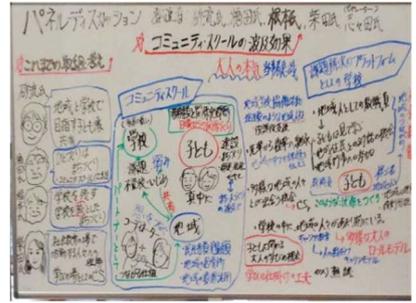
第2部は、県生涯学習課担当者から地域学校協働活動における文部科学省の取組と県生涯学習課、県総合社会教育センターの研修状況等について説明後、意見交換が行われました。

今年度の県立学校モデル校3校の地域学校協働活動推進員の活動については、「地域学校協働活動が目標ではなく、開かれた教育課程の実現が目指すところということを学校運営協議会委員にも理解してもらいながら、地域とともに進めてきた。」「小・中学校に比べて、特別支援学校は地域との距離は遠いが、これを近づけて理解してもらうことが重要と考える。」「学校としては、大変ありがたい。来年度も推進員が欲しい。推進員は学校の文化と地域の文化をつなぐ人財であると考え、地域の方が学校に入ったらどうなるだろうと思いつつお願いした。」など、3校の推進員は、学校と地域をつなぎ、住民に取り組みを浸透させながら活動の幅を広げている様子が報告されました。

また、ボランティアの高齢化やいつも同じ人になるという課題については、「協力してもらうために何をすればよいのか」「こどもが大人になっていくための豊かな環境作りに学校がどう変わっていけるのか」「親や教師以外の様々な人と人間関係を築くことをめざして、日常的な情報交換が必要ではないか」などの意見交換がなされ、地域学校協働活動の重要性を再認識しました。



全国コミュニティ・スクール研究大会 by 鳥取県南部町 地域とともにある学校づくり推進フォーラム 2023 南部町



令和5年度全国コミュニティ・スクール研究大会は、「コミュニティ・スクール その先へ～今こそ魅せる大人の本気～」をテーマに、12月15日鳥取県米子市で開催されました。全国から会場866名、オンライン796名が参加し会場は満席でした。アトラクションでは、鳥取県立日野高等学校の伝統芸能 荒神神楽『八重垣能』が披露されました。学校の近くの船通山が発祥の地と言われ、平成7年に地域から継承されたストーリー性のある力強い演舞に魅了されました。

その後は、パネルディスカッション、分科会へと進み、「学校を核とした地域づくり」の第3分科会に参加しました。鳥取県立岩実高等学校の事例発表は、岩実の資源を活かした特色ある5教科など、“中学生がいきたくなる高校”をめざして、魅力化コンソーシアムの具体的な取組を教育委員会と連携し、学校運営協議会と地域学校協働活動に取り組む様子が紹介されました。その取組の結果、コミュニティ・スクールを導入する前と後では入学志願者数が倍増したそうです。世界のどこでも通用する独自の特性才能を磨く学校を目標とした辻中校長先生の発表は、ユーモアにあふれ、学校を思い、地域を思い、生徒たちの将来を描く熱い内容でした。

今回の研究大会は、「大人の本気」をテーマとしていて、発表された教育長や校長先生、推進員の方々のこどもたちを思う熱意やひたむきさ、エネルギーあふれる実践活動に感動した研修会でした。

平内町 地域学校協働活動運営委員会

令和6年2月8日、平内町教育委員会は、令和5年度地域学校協働活動運営委員会を平内町山村開発センターで開催しました。渡辺伸一教育長をはじめ、委員10名が出席しました。今年度の主な活動内容として、平内中学校では、平内町赤十字奉仕団・平内町連合婦人会が参加した朝のあいさつ運動やバスケットボール部の指導、環境整備を、山口小学校は、ほたて太鼓の指導や昔あそび（だいこん抜き、割り箸鉄砲、風船羽子板など）を、東小学校は、ふるさと交流会、読み聞かせを、小湊小学校では三味線クラブの指導、もちつき集会での補助などで、累計562名のボランティアが活動しました。また、学校とボランティアの活動後のアンケート結果では、81%が満足と答え、次年度の更なる活動が期待されました。

学校からは、「三味線のプロに教えてもらったことは、こどもに貴重な体験だった。」「地域芸能を学ぶ貴重な時間となったとともに学習発表会やひらな祭りで披露することができ、やりがいのある活動となった。」また、地域の方からは、「こどもたちは好奇心旺盛で礼儀正しく、上級生の下級生に対する思いやりが伝わり、一緒にいて楽しく充実感があった。」「ボランティアをすることで、普段会えない方にも会えて一緒に草取りをして楽しかった。」などの感想がありました。

平内町3名の推進員と教育委員会、地域住民のこれまでの協働体制の成果を見ることができました。

地域学校協働活動のヒント ～防災～

青森市内の小学4年生が「防災士」資格を取得した新聞記事をご覧になった方もいらっしゃると思いますが、皆さんがお住まいの地域や町会にも、様々な資格を持っている方がいらっしゃるのではないでしょうか。

先日、関西大学境キャンパスで防災リーダー15名と車椅子で参加したご家族2組など、地域住民58名が大阪府堺市堺区主催の避難所運営訓練に参加しました。堺区では、無料で希望者に「防災士資格取得試験」を受験させ、20代～40代を中心に防災リーダーとして育成しています。1月に能登半島地震があったばかりで関心が高く、参加者からは「避難所がどういうものか体験したかった。」「段ボールベッドの作り方を教えてもらいたい。」「備蓄している防災用具を組み立ててみたい。」などの目的を持ちながら、事前学習した若手防災リーダー指導のもと、訓練に参加しました。

これからの地域学校協働活動は、地域や企業の方々や資格や特技、経験を積んだ人材の協力を得てこどもたちが学ぶこととともに、誰もが活躍できる場づくりと若者の育成につなげていくことが重要だと思います。そして、地域課題の解決には、地域コミュニティがつながり、地域の良さを再発見し、学びのフィールドとして、こどもたちや若者が「まちづくりの運営」にも携わることを期待したいと思います。

防災



防災リーダーの皆さん

